

「教育臨床総合研究 特別号」

だんだん塾の取り組みについて

A Report on Approaches to the “Dandanjuku”

寺井由美*

Yumi TERAJ

村上幸人*

Yukito MURAKAMI

長岡美沙*

Misa NAGAOKA

藤田耕一*

Koichi FUJITA

光森智哉*

Tomoya MITSUMORI

大谷修司**

Shuji OHTANI

要旨

平成18年度より延べ31名の講師を招聘し、29回の「だんだん塾講演会」を開催してきた。ここでは、これまでの開催実績をまとめ、各講演会に参加した学生の10の教師力についての自己評価をもとに、学生が得た学びについて考察を行うこととする。

〔キーワード〕 だんだん塾講演会 基礎体験活動 10の教師力

I はじめに

「だんだん塾」とは、平成18年に開設した教育支援センター専任教員による学生支援の場である。そこでは、次のような学生支援活動を行っている。

1. 基礎体験活動の省察

- ・基礎体験活動の事前・事後指導により、基礎体験活動への目的意識を明確にすると共に、多様な視点から活動を振り返る省察の場として活用する。
- ・今後の体験活動に対する目的意識を高め自己改善につなげるために、学生と担当教員といっしょに評価を行う。

2. 専任教員の専門性や指導力、これまでの経験を生かした定期的な講演会（講座）の開催

- ・教育実習や基礎体験活動での経験をふまえ、今日的教育課題や子どもとのかかわり方などを題材にした講演会や講座を開催する。

3. 基礎体験や教職にかかわる日常的な相談活動

- ・基礎体験活動や教職にかかわる相談、情報交換などを行う。

* 島根大学教育学部附属教育支援センター

** 島根大学教育学部自然環境教育講座（附属教育支援センター兼任）

また「だんだん塾」の名称は、出雲弁の「だんだん」（ありがたいの意味）という言葉を用い、この活動の目的から次の3つをイメージしている。

「ありがとう，感謝の気持ち（だんだん）」

この塾で教員や学生同士のかかわりを通して、様々な人との出会いに感謝すると共に、自身自身の成長を喜べる気持ちをもってほしいという願いを込めた。

「暖 暖（だんだん）」

学生と教員がお互いに温かなかかわりの中で、相談や情報交換ができることを意識した。

「少しずつ確実に（だんだん）」

この塾での学びを生かして学生たちが、だんだんと（少しずつ）成長してほしいという願いを込めた。

このような願いのもと活動しているが、本稿では、8年間を通した「だんだん塾」における講演会（講座）の取り組みの概要、及び参加学生が得た学びについて報告する。なお、基礎体験活動の事前・事後指導については、本論文集の村上他に詳しい報告をしているので参照されたい。

Ⅱ だんだん塾講演会（講座）開催の経緯

「だんだん塾」を開設した平成18年度から平成25年度までの取り組みの経緯と改善点を表1にまとめた。平成20年度には、これまで「だんだん塾講演会」とは別に開催していたサポート・マイスター（島根大学教育学部の外部評価委員）による講演会と、目的・内容等が重複することから「だんだん塾講演会」として一本化し開催することとした。また平成22年度には内容の充実や受講学生を増やすために臨床・カウンセリング体験領域との一部合同開催を実施した。

表1 だんだん塾講演会（講座）の開催の経緯と改善点

	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
だんだん塾講演会（講座）	○	○	◎	○	◎	○	○	○
サポート・マイスター講演会	○	○						

○：実施，◎：改善

Ⅲ 開催実績

これまで、毎年3～5回の講演会（講座）を開催し、「学校現場で求められる教師像」や「学校を取り巻く今日的な教育課題」についての講話、「コミュニケーション・スキルアップ」をテーマとして、集団の中で人間関係を築くための手立てや、自分の考えや思いを相手に正しく伝えるための話し方や文章表現の仕方について学ぶ研修、基礎体験活動において学生自身が企画・運営する力をつけるためのワークショップ等の学びの機会を提供してきている。各回の講演者、並びに講演テーマは、表2のとおりである。

また、各回の参加人数をグラフ1に示している。各回の内容によって募集人数が異なるが、毎回30名前後の学生が参加している。

表2 だんだん塾講演会（講座）一覧

年度	回	講演者	講演テーマ [基礎体験6つの力] <10の教師力>
2006 (H18)	1	教育学部4回生 徳永峻二さん中本諭さん	「キャンプファイヤーレクを学ぶ」 [指導力]
	2	島根県レクリエーション協会 常任理事 足立隆博先生	「レクリエーションの奥義を学ぼう」 [指導力]
	3	前海士中学校長, 現海士町 教育長 佃 稔先生	「教職を目指す大学生に望むこと」 [社会の一員としての自覚]
2007 (H19)	1	境港市立余子小学校長 渡邊憲二先生	「教育現場の校長が求める教師像とは」 ～現在の教育改革や教育における諸問題に対して～ [学校理解]
	2	雲南市立西小学校長 神門三郎先生	「地域・保護者が期待する教師像とは」 ～学社融合によってどのような効果があるか～ [学校理解]
	3	元小学校教諭 佐貫良子先生	「子ども一人ひとりを生かした学習指導と学級経営」 [子ども理解]
2008 (H20)	1	奥出雲町立八川小学校 斎藤英明教頭	「学校現場で行われている個別支援について」 ～一人の教師としてできること～ [子ども理解]
	2	奥出雲町立横田小学校 安部 隆校長	「今、学校教育で求められる先生とは」 [社会の一員としての自覚]
	3	安来市立伯太中学校 長岡素巳校長	「これからの教師に求められる力」 ～一人一人の教師に求められる力と、これからの学校教育～ [学校理解]
	4	法政大学生命科学部 左巻健男教授	「自信、ある？」 ～今を生き抜く科学リテラシー～ [指導力]
2009 (H21)	1	劇団あしぶえ 小岩崎里瑠先生	「人とのかかわり, ちょっとしたきづき」 ～集団の中での人間関係づくり～ [人間関係力]
	2	山陰中央テレビアナウンサー 河野美知先生	「伝える・伝わる話し方」 [人間関係力]
	3	山陰中央新報論説委員 高尾雅裕先生	「きちんと自己表現できる社会人になるために」 [人間関係力]
	4	津山市立高倉小学校 甲本卓司先生紙芝居屋「夢屋」 代表 中村由利江先生	「聞き手を引きつける話し方について考える」 [人間関係力]
2010 (H22)	1	島根県教育庁社会教育課 社会教育主事 木村真介先生	「人とのかかわり, 人とのつながり」 ～集団の中での人間関係づくり～ <コミュニケーション>
	2	島根大学生涯学習研究センター 日野伸哉先生	「コミュニケーションスキル向上セミナー」 ～グループ（集団）内でのコミュニケーション～ <コミュニケーション>

	3	☆臨床・カウンセリング体験領域と 合同開催 一畑薬師管長 飯塚大幸先生	「これからの時代を生きるための人間力とは」 ～ブッダの教えに学ぶ～ ＜教師像・倫理＞
	4	山陰中央新報 論説委員 高尾雅裕先生	「きちんと自己表現できる社会人になるために！」 ～「書く力」を鍛える～ ＜コミュニケーション＞
	5	山陰放送アナウンサー 山根伸志先生	「自分の考えや思いを言葉でどう表現するか」 ＜コミュニケーション＞
2011 (H23)	1	島根大学生涯学習教育研究センター 日野伸哉先生	「企画力UPセミナー」 ～子どもを対象にした企画・立案のポイント～ ＜探求力＞
	2	松江市発達・教育相談支援センター 梅田英樹先生	「知ること・理解しようとする事、 敬意をもつこと・まねようとする事」 ＜学習者理解＞
	3	山陰放送アナウンサー 山根伸志先生	「自分の思いをのせたコミュニケーション」 ＜コミュニケーション＞
	4	山陰中央新報社 論説副委員長 高尾雅裕先生	「きちんと自己表現できる社会人になるために」 ～「書く力」を鍛える～ ＜コミュニケーション＞
2012 (H24)	1	島根大学生涯学習教育研究センター 日野伸哉先生	「企画力UPセミナー」 ～子どもを対象にした企画・立案のポイント～ ＜探求力＞
	2	松江市発達・教育相談支援センター 梅田英樹先生	「知ること・理解しようとする事、 敬意をもつこと・まねようとする事」 ＜学習者理解＞
	3	フリーアナウンサー 河野美知先生	「伝える、伝わる話し方」 ＜コミュニケーション＞
	4	前島根県立松江東高等学校長 中村清志先生	「がっこうのせんせい」 ＜教師像・倫理＞
2013 (H25)	1	島根県立東部社会教育研修センター 日野伸哉先生	「みんなワクワク 企画力UPセミナー」 ＜探求力＞
	2	附属学校園ALT 片寄 メーガン先生	「日本に住んで 島根でつとめて」 ＜コミュニケーション＞

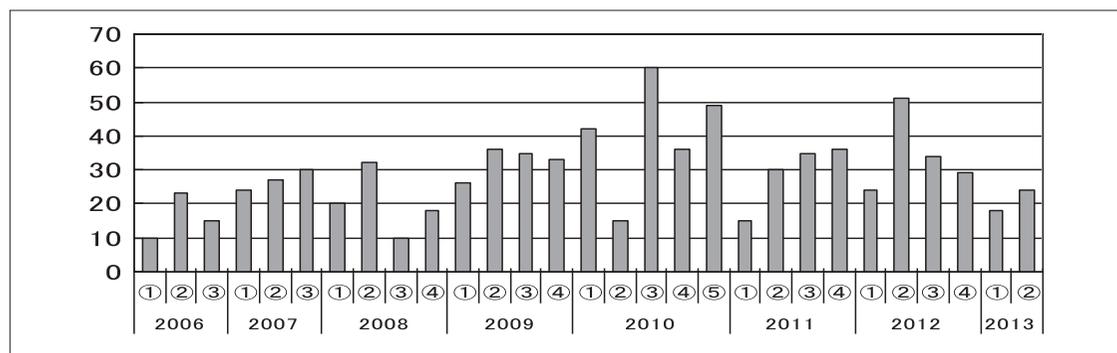


図1 各回の参加人数

Ⅳ だんだん塾講演会から得られた学生の学びについて

だんだん塾講演会に参加した学生は、1000時間基礎体験領域における評価軸（改訂2010～）すなわち10の教師力について細分化した評価基準をもとに、振り返りを行っている。それぞれの評価軸についての参加学生の自己評価の平均値を表3に示した。ここでは、自己評価のポイントの高かった評価項目（網掛け）に注目し、4つの講演会（太枠）をピックアップして、学生が記述したことを基にその成果をまとめてみたい。

表3 だんだん塾講演会（講座）参加学生の自己評価（2010年度～2013年度）

活動で期待できる10の教師力		年度 回	2010					2011				2012				2013		
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	
教育実践力	学校理解	①	0	0	0	0	0	0	3.4	0	0	0	4.0	0	0	0	0	4.1
		②	0	0	0	0	0	0	4.1	0	0	0	4.2	0	0	0	0	3.5
	学習者理解	①	2.3	2.5	0	0	0	2.3	4.2	0	0	2.8	4.1	0	1.8	2.9	4.4	
		②	2	2.6	0	0	0	1.5	4.1	0	0	2.8	3.9	0	1.5	2.8	4.5	
	教科基礎知識・技能	①	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.5	0	0	0	0	0	3.0
授業実践	①	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.5	3.8	0	0	0	0	0	
対人関係力	リーダーシップ・協力	①	2.9	3.4	1.6	0	0	3.5	0	0	0	3.8	0	0	0	3.8	0	
		②	4.1	4.0	2.2	0	0	4.4	0	0	0	4.3	0	0	0	4.3	0	
		③	4.3	4.4	2.5	0	0	4.9	0	0	0	4.5	0	0	0	4.5	0	
	社会参加	①	3.2	3.5	0	0	0	3.1	4.2	0	0	3	0	0	3.5	3.9	3.8	
	コミュニケーション	①	4.0	3.9	2.8	2.4	2.9	3.4	2.2	3.9	0	4.2	0	4.0	2.8	4.0	3.3	
		②	4.1	4.2	3	2.9	3.8	4.3	3.3	4.4	0	4.2	0	4.2	2.8	4.3	3.2	
		③	1.7	1.7	1.7	1.1	1.4	1	1.9	2.5	0	1.6	0	2.8	0.5	2.6	4.5	
		④	2.7	3.1	2	2.3	2.7	2.9	2.1	3.9	0	3.2	0	4.3	1.5	3.5	1.8	
自己深化力	探求力	①	4.0	4.1	4.7	4.1	4.4	4.7	0.8	4.4	4.3	4.4	0	4.6	4.5	4.1	0	
		②	2	1.9	1.7	1.1	1.5	3.6	0	1.5	1.5	4.0	0	1.5	0.5	4.0	0	
		③	3.2	3.7	2.3	2.3	3.1	4.5	0	2.9	3.4	4.2	0	3.5	3.8	4.1	0	
	教師像・倫理	①	0.4	0	0.3	3.5	3.9	0	0	4.3	3.8	0.8	0	4.1	0.5	0	0	
	リテラシー	①	0	0	0	3.6	3.9	0	3.8	3.9	4.2	0.8	3.8	3.8	2	0	4.0	
		②	0	0	0	3.6	4.1	0	4.1	4.2	4.4	1.3	4.4	4.3	2.2	0	4.2	

非常によくできた・・・5 よくできた・・・4 どちらともいえない・・・3
 あまりできなかった・・・2 全くできなかった・・・1 該当しない・・・0

[2010 (H22) 年度 第3回 だんだん塾講演会]

- 演題：「これからの時代を生きるための人間力とは」～ブッダの教えに学ぶ～
- 講師：一畑薬師管長 飯塚大幸先生
- 評価基準及び評価ポイント

<探究力>

- ① 自分の長所や短所，これから伸ばしていきたい能力，克服すべき課題をきちんと把握できたか。4.7

○学生の感想（以下下線は筆者）

最初は仏法的なお話をされるのか，難しそうだなと感じていたが，お話を聞いていくうちに，人間に共通する非常に根本的な考え方があると感じ，とても面白いなと思った。「身口意の三業をととのえる」という考え方は，行い，言葉，心と本当に基本的なことだけれども，それら一つひとつをしっかりと実践していくことが，人間力の育成につながっていくと思う。また，人生は苦であるという考え方はなるほどと感じた。全ての苦しみを取り除くことが，果たして子どもにとっての本当の幸せと言えるのかということにすごく考えさせられた。現代では子ども達に対して，ある意味過保護な世の中になっているので，そんな中で私は何を子ども達に伝えていくのか考えていこうと思った。

臨床・カウンセリング体験領域と合同開催であり，60名と多くの学生の参加があった。「先行きのなかなか見えにくいこれからの時代を生きるために，必要な人間力を身に着けるには，どのようにしたらよいのか」という心の在り方に関連したテーマのもと，飯塚先生ご自身の修行時代や留学体験を振り返っての講演であった。上記の感想より，この学生は，人間力育成のために何を実践すべきか自分自身の思いを持つことができたことがわかる。また，子ども達との関わりの中で，教える側としての課題を見出していることがうかがえる。

[2011 (H22) 年度 第1回 だんだん塾講演会]

- 演題：「企画力UPセミナー」～子どもを対象にした企画・立案のポイント～
- 講師：島根大学生涯学習教育研究センター日野伸哉先生
- 評価基準及び評価ポイント

<リーダーシップ・協力>

- ③ グループの仲間と協力して活動することができたか。4.9

<探究力>

- ① 自分の長所や短所，これから伸ばしていきたい能力，克服すべき課題をきちんと把握できたか。4.7
- ③ 自らの課題や友達と協同する課題などを解決することができたか。4.5

○学生の感想

私はこの講演会で教わったことがたくさんある。中でも一番印象に残っている言葉は、「心の壁をさげる」という言葉だ。私は人と話す時、どこかで自分自身に壁を作ってしまう、「自分を出す」ということが苦手だった。しかし、自分の中に壁を作ってしまうと相手の心の中にも壁を作ってしまうことに気づいた。私は今後、子どもたちと接するときに自分の壁だけでなく、子ども達が持つ心の壁を少しずつ取り除いていきたい。そうすることによって、共に心から楽しめるような活動を展開していけるよう企画力やコミュニケーション能力にさらに磨きをかけていきたいと思う。

この体験は、実際にアクティビティをしながら、その時々でポイントを説明してもらうという活動だったので、とても分かりやすく、学んでいて楽しかった。グループでの企画書づくり等を通して、メンバーシップも学ぶことができた。今回得た知識をこれからの基礎体験活動に活かし、今回あまりできなかった自分の意見を積極的に述べるということやリーダーシップをとるといことなどを磨いていきたい。

90分×2回のワークショップ形式の講座であった。初回は、様々なアクティビティから「心の壁を下げる」ことや「自由で、笑える、失敗が許される雰囲気づくり」等について、体験的に学ぶ中で、企画・立案のポイントのレクチャーがあった。上記の感想には、心の壁という視点で、自分自身の短所や子ども達との関わりを見つめることで、課題を克服し、さらに伸びていこうとする気持ちが書かれている。また2回目は、場面設定をし、グループでイベントの企画書を作成し、プレゼンテーションを行った。近年、基礎体験活動において自主企画を任せられる学生も増えてきており、感想からも講演会での学びを実践に活かしていこうとする意欲を感じることができる。

[2012 (H23) 年度 第2回 だんだん塾講演会]

- 演題：「知ること・理解しようとする事、敬意をもつこと・まねようとする事」
- 講師：松江市発達・教育相談支援センター梅田英樹先生
- 評価基準及び評価ポイント

<学校理解>

- ① 特別支援学校等の学校や校種における特徴などを理解することができたか。4.0
- ② 特別支援教育に関わる教師や支援者の仕事を理解することができたか。4.2

<子ども理解>

- ① 障がいのある子どもに応じたかわり方を知ることができたか。4.1

○学生の感想

特別支援教育については知識的な部分しか分かっておらず、また、学童クラブのアルバイトで、子どもと接する中で、多動であったり人の話を聞くことができなかつたりといった子どもの対応に困ることがあったので、今回の講演はそういった悩みの解決のきっかけになった。まず相手のことを知ること、その子の不安やこだわりをこちらが積極的に知ろうとすることでさらに深い理解につながっていくことを学んだ。これは私自身やろうと心がけてはいるものの、どこかで「できないかもしれない」とあきらめてしまっていることでもあったので、今後はしっかり意識して子どもと接していきたいと考えている。

また、「敬意をもつこと」に関しては全く無い視点であったので、信頼関係を築くためにも実践していきたいと思った。熱意をもって行動するように努めたい。

私は基礎体験先がデイサービスを行っているところで、障がいのある子どもたちがいる。その子たちと接することは慣れないことだったので不安でいっぱい気持ちになった。でも、それで終わってはいけなと感じている。理解しようとする姿勢、また努力することは教員として必要な資質能力であると思う。その中で「敬意をもつこと」は大変重要な能力だと思う。

今回の講演会で「あれはそういうことだったのか」と納得を数多くすることができた。また、「まねをすること」で自分なりの方法も見つけつつある。今後の活動、さらには日常生活において活かしていきたいと思う。

基礎体験活動の事後指導などで、特別に支援を必要とする子どもたちと関わる中、どのように対応したらよいかわからなくて困ってしまった経験が学生から多く報告されている。今回の講演会のテーマは、参加人数が51名と多かったことから学生のニーズに応えるものとなったと考える。学生の感想からは、それぞれの経験をふりかえりながら、特別支援教育の必要性やそのあり方について、自分の実践レベルにおいて考えることができていることがわかる。また、どちらの感想にも「敬意をもつこと」という言葉が記されている。梅田先生ご自身の具体的な経験から生まれた重みのある言葉であったが、学生にとっては、新たな視点であり、今後障がいのある子どもや家族と関わる時の姿勢として心に刻まれたと思われる。

[2012 (H24) 年度 第3回 だんだん塾講演会]

○演題：「伝える、伝わる話し方」

○講師：フリーアナウンサー河野美知先生

○評価基準及び評価ポイント

<コミュニケーション>

- ① 学校や地域の方々と積極的に関わりを持つとしようとする意欲を持つことができたか。4.0
- ② 場や相手に応じた挨拶や言葉遣い等の大切さを理解することができたか。4.2
- ④ 今後、受け入れ先の方と論理的にコミュニケーションをとりたいと考えたか。4.3

<探求力>

- ① 自分の長所や短所、これから伸ばしていきたい能力、克服すべき課題をきちんと把握できたか。4.6

○学生の感想

教員採用試験を控えた私にとって、面接での態度や必要とされる人間性について考える、とても大きなきっかけとなった講演会だった。「ノンバーバル・コミュニケーション」の大切さについて改めて気づくことができ、今までよく使っていた言葉である「コミュニケーション力」というものが、より具体的になった。また、今回の講演で、河野さんの語りかける姿が、私の目指す「話す姿」となり、教壇に立って話すことが楽しみになってきた。

人とコミュニケーションをとるうえで、目で話す・聞くことの大切さについては、今までずっと教えられてきたことであり分かっていたが、相手を引き出す力「共感力」ということは初めて意識した。面接において話す内容よりも、その喋り方で人そのものを評価していることも多いと聞いて驚いた。また、人に何かを伝える時にまんべんなく見渡すより、1対1として一人ずつ話しかけるように意識する（3秒ずつロックオン）ということを実習前に知っておきたかったなと思ったが、今後の面接や実習Ⅵなどで活かしていきたい。

「自分の思いや考えをどう整理し、どう表現すればよいのか」学生の表現力向上につなげることをねらいとした講演会であった。参加した学生の感想から、伝える、伝わる話し方をするための心がけやテクニック、コミュニケーション力の具体的なリアクションなどを学ぶことができたことがわかる。だんだん塾講演会は、全学年を対象として行っているが、特に3年生の積極的な参加が目立った。感想をあげた学生も3年生であるが、これから教員採用試験や就職活動に向かおうとする意欲が全面に出ており、学生にとって「話す力」は大変関心の高い内容であることがうかがえる。

V おわりに

これまで「だんだん塾講演会」では、講師としてサポート・マイスター（島根大学教育学部の外部評価委員）をはじめ様々な分野で活躍しておられる専門家を招聘してきた。参加した学生たちは、そこで講師の先生と出会い、出会いの中から多くのことを学んできている。そのことは自己評価の数値と感想に表われている。感想に表われる学生の学びは、主観的なものであ

るかもしれない。しかし、心を動かされた言葉や話、印象に残った講師の先生の姿、心と体で感じ取ったことなど、決して数字では表せない学びがそこには含まれている。その学びが、学生にとって目の前にある課題を解決するための糸口となったり、基礎体験活動や教育実習などでの活力源となったりする。そして、近い将来、社会に出て、立派な教師として成長していく時の大切な糧ともなると考えている。

今後も学生達の基礎体験活動領域への取り組みの様子や事前事後指導での関わり等を通して学生の実態やニーズを把握した上で、ねらいを明確にし、「だんだん塾講演会」の学びの機会を提供していきたい。また、内容によっては、臨床・カウンセリング体験領域との合同開催やFD戦略センターが主催で行っている教師力パワーアップセミナーとの合同開催なども視野に入れて、より充実した取り組みとしていく必要も感じている。

参考文献

- 1) 嘉賀収司・斎藤英明・山中慎嗣・秦光司・小川巖 2007. 平成18年度の基礎体験領域の取組について. 島根大学教育臨床総合研究 6:1-10.
- 2) 長澤郁夫・青山巧・嘉賀収司・斎藤英明・小川巖 2008. 平成19年度の基礎体験領域の取組について. 島根大学教育臨床総合研究 7:1-14.
- 3) 長澤郁夫・池山圭吾・福間敏之・青山巧・高須佳奈・小川巖 2009. 平成20年度の基礎体験領域の取組について. 島根大学教育臨床総合研究 8:21-36.
- 4) 長澤郁夫・池山圭吾・福間敏之・青山巧・小川巖 2010. 平成21年度の基礎体験領域の取組について. 島根大学教育臨床総合研究 9:9-20.
- 5) 長澤郁夫・池山圭吾・山本幸市・福間敏之・境英俊 2011. 平成22年度の基礎体験領域の取組について. 島根大学教育臨床総合研究 10:1-14.
- 6) 長澤郁夫・藤田耕一・山本幸市・村上幸人・境英俊 2012. 平成23年度の基礎体験領域の取り組みについて. 島根大学教育臨床総合研究 11:1-14.
- 7) 山本幸市・長澤郁夫・藤田耕一・村上幸人・大谷修司 2013. 平成24年度の基礎体験領域の取り組みについて. 島根大学教育臨床総合研究 12:1-15.
- 8) 熊丸真太郎・縄田裕幸・富安慎吾・河添達也 2013. 島根大学教育学部における教員養成の質保証に向けた取組の理念と実践. 島根大学教育臨床総合研究 12:29-42.